

第25回連合北海道女性委員会総会 報告

10月4日(土)14時からホテル札幌ガーデンパレスにおいて、第25回連合北海道女性委員会総会が開催されました。

総会には9産別2地区から24名代議員が出席し、情報労連の定居美稚子代議員が議長に選出されました。

冒頭、山田悦子女性委員会委員長から「女性委員会ではこの1年間、職場の現状や課題、解決の手立てを明らかにするため、各種の集会を開催し諸会議にも出席してきた。『女性の活躍促進』が叫ばれ、管理職への登用も進んでいるが、一方で、女性参画が数字ありきで形ばかりの取り組みになっているところもある。女性の働く環境整備が必要であり、そのためには女性自身の意識改革や行動も必要である」との挨拶がありました。



連合北海道男女平等局の渡辺直志副事務局長の挨拶では、連合「第4次男女平等参画推進計画」にふれ、「2015年までに全組織が男女平等に係る方針を明記すること」「両立支援を進める企業に与えられる『くるみんマーク』の取得を春闘要求に入れるなどの取り組みをしていこう。まずは、女性の意見が反映される仕組みをつくる必要がある」と呼びかけられました。

来賓として徳永エリ参議院議員、小林郁子道議、広田まゆみ道議、三宅由美札幌市議、篠田江里子札幌市議、村上裕子札幌市議、植松裕子札幌市議の7名からもご挨拶を受けました。

徳永参議院議員からは、「雇用労働者の4割が非正規。そのうち7割が女性。非正規を正規にしていかなければならないが、政府がやっていることは全く逆」と国政報告も含めたお話がありました。

議事に入り、一般経過報告と第1号議案2014年度活動総括案の提案では、連合「第4次男女平等参画推進計画」に関する取り組みや「均等法集会」などの集会の内容について説明を行いました。第2号議案2015年度活動方針案では女性に関する施策や労働法について学習を進め、企業や事業所に周知・徹底がされるよう関係機関に働きかけることなど提案され、いずれの議案も代議員全員の拍手で承認されました。

続いて各産別・地区からの報告があり、自治労、UAゼンセン、全労金、札幌地区連合、全開発婦人部から発言がありました。全労金からは「現在本部の女性役員がないことが大きな課題である。女性ゼロの解消に向けて取り組む」という実態報告がありました。全開発婦人部からは「『働き続けたい、健康でありたい』というテーマのもと、6月に交流会を開催した。部員が減少していることが悩みだが、今後の参考にしたいので、女性委員会の過去の集会の内容や講師を教えてほしい」という要望も出されました。

その後、2015年度役員体制について執行部から提案があり、満場一致で承認されました。新旧役員あいさつでは、来年の統一自治体選挙で札幌市南区選挙区から道議会議員に立候補予定で、今総会で退任される畠山みのり事務局長が「曲がり角の先には何があるかわからない(希望がある)」という小説「赤毛のアン」の一節を引用しながら「自分も今、そこに立っている」との力強い決意表明がありました。

定居議長のスムーズな進行のもと、女性が働きやすい労働環境をつくること、そのために学習と交流を進め女性委員会の組織化を図ることを確認し合い、総会は終了しました。

